

## 平成29年度 西武学園文理中学校 学校自己評価表

目指す学校像	グローバルな視野と21世紀型スキルを培って、海外も含めた多彩なステージで活躍し社会に貢献できるレディー&ジェントルマンの育成		A ほぼ達成（8割以上）
重点目標	グローバルな視野と21世紀型スキルを培うために学校教育活動全般を通じて①総合的な言語力の修得②異文化理解の体得③日本の伝統文化の理解以上の三点について特に留意してその育成を図る。特に、日常生活面における指導の徹底を図り、自学自習の習慣の強化、情操の向上等により社会から信頼される人格の陶冶を目指す。	達成度	B おおむね達成（6割以上） C 変化の兆し（4割以上） D 不十分（4割未満）

年度課題		年度評価		次年度への課題と改善策	
No.	課題	具体的目標	課題項目の達成状況		
1	教育活動	学力の向上	授業時間の確保に努め、S時限、確認テスト、補講などを充実させ基礎学力の定着を図った。更にオンライン英会話やオンライン添削等を授業に取り込み、英語の4技能を身につけさせた。	A	オンライン英会話やオンライン添削に加え、多読に取り組み、英語の4技能を身につけさせる。
			理数教育特にSTEM教育を意識し、中学時代より生徒を理科好きにさせるべく、様々な取り組みを行った。また英語教育とりわけ英語の4技能取得を意識して、ALTを英語の授業に多く活用し、Speaking力とListening力を身につけさせた。中学3年間、中高6年間の授業進度計画表(シラバス)を全教科で作成し、年度当初の4月に各学年に配布して活用した。加えて、英検や漢検を受験させ、中学三年生の半数以上が上位級に合格した。	B	英検及びGTEC・漢検等の資格試験を積極的に受験させ、上位級を取得させる。
			学力推移調査を用い、各生徒に自分の学力水準を全国レベルで把握させ、学習指導に活かした。また外部模試を受験させ、難解な問題にも取り組ませることによって更なる学力向上に努めた。	B	データ分析を行い、更に有効な活用を図る。
		人間形成	中学二年次から研究課題学習を意識して生徒各自で自由なテーマを選び、中学卒業時に提出する卒業論文の作成に取り組ませた。そこで体験的な活動や研究を中心に学習を展開するようにし、その過程や研究結果に関する成果物を様々な方法で記録させ、卒業論文として仕上げさせた。家庭学習の習慣を身につけさせると共に放課後の下校時間を有効利用させ、特に定期考査の計画表作成と個別指導、補講を行った。	A	主体性・多様性・協働性をもった人材育成を念頭に新たな教育の構築を図る。効率性に加え、創造性を育む取り組みを日々の学習に導入。
			学習だけでなく、多彩な学校行事を通し、生徒たちに達成感や友人達との協調の大切さを体験させた。クラブ活動では限られた時間の中で、29年度も県大会に出場するクラブもあり、生徒の努力と成長が認められた。	A	中央委員会を中心に委員会活動が充実してきている。継続できるような的確な指示を与える。
			「総合的な学習(CA)」の計画的な実施と内容の充実を図った。文化祭における展示発表の中で協調性を養うと共に、プレゼンテーション能力などを確実に身に付けた。更にキャリア教育の一環として、狭山市民大学及び狭山市役所及び商工会議所と連携を図り、狭山市という地域社会との関わりの中で市全体の活性化に向けて、生徒自身の手で様々な取り組みを行った。最終的に狭山市民会館で、狭山市民、市長を招いてその成果をPPを駆使して発表した。更に市内の企業である小岩井乳業と連携し、購買戦略を考え、商工祭で実演を試みた。	A	狭山市民大学とのコラボを行うと共に新たな企業との連携を図り、研究課題学習に取り組ませたい。開校以来の伝統を守ると共に、より充実した内容になるよう努める。
挨拶運動(オアシス運動)や頭髪服装指導を通し、端正な身なりと明るい挨拶のできる生徒たちが増えている。いじめについては生活アンケートを実施したり、担任との面談によって防止に努めた。また、薬物乱用防止、サイバー対策、性教育などの講演会を随時実施し、非行防止にも努めた。	B	生活指導では、問題が見られる乗車マナーなどの更なる向上を図る。いじめについては教職員、生徒共にその提議を再認識し、注意喚起を定期的に促す。			
2	学校としての組織的対応	進路指導部との連携	週1回、中学各学年の代表者と進路指導部の担当者が定例会議を持ち、高等学校卒業時に、自己の目標を実現可能にするために必要事項を検討した。また、高校入学後の12年一貫生についての授業展開について検討した。	C	多種多様な才能を持っている生徒の学力を伸ばすための必要事項を確認し、実際に指導に当たる。
		保護者との連携	保護者会、授業参観、保護者面談を定期的実施し、年度当初の学校ならびに学年運営計画を保護者に説明し、理解と協力を求めた。またHPでは、保護者連絡欄を必要に応じて更新し、連絡事項の徹底を図った。更にclaassiを導入し、クラス毎のグループ配信を活用し、学校と家庭の連絡や危機管理について繋がりを密にしている。	B	全学年にタブレット端末を配布し、学校と家庭の連絡や情報交換を行い危機管理について繋がりを密にしている。保護者との協力を一層強化し、教育活動の充実を図る。
		教育活動の対外的報告	HPの「What's New」欄の更新により、学校行事やクラブ・委員会活動の様子など、学校の様々な活動をタイムリーに報じることができた。また、各学年で「学年通信」を発行し、学年の様子を保護者に伝えることができた。	B	内容の更なる充実を図る。
		学習環境の美化と整備	年度当初より5S運動(整理、清掃、整頓、清潔、躰)を教員研修を含めて推進した。中学校では、教員と生徒が一体となって学習環境の整備、改善に努めることができるよう開校以来全員清掃を行っている。学内で「危機管理委員会」を立ち上げ、有事の際の備えについて考案した。	B	「危機管理委員会」のメンバーで有事の際の備えについて更に詳細にわたっての計画を考案する。日々の生活の中で5S運動が実践できるようにする。
3	教職員 人材育成	授業アンケートの実施	生徒による授業アンケートと学校アンケートを実施した。教員一人ひとりの集計結果は各教員が自らの授業改善に役立て、明らかとなった課題を共有し、各教科指導に反映させた。	B	次年度も各教員の質的向上と学校全体の教育力の向上に努める。
		課題設定表の作成と評価	全教員が「年度課題設定表」を作成し、自ら取り組むべき課題を明らかにし、年度末には課題の達成度を各自で評価し、分掌評価、学校評価へ結び付けている。	A	30年度も、教員の効果的な自己点検自己評価を意識的にできるように工夫する。
		職員研修会の実施	年間を通じ定期的に職員研修を行った。研修は、外部講師または校内担当者に依頼し、「進路指導」「生徒指導」「教育相談」「環境美化」など内容も多岐に及んだ。	B	年間を通じた、より計画的な研修を実施し、資質向上に努める。特に防災に対しては、教職員の危機管理意識を高める。

平成29年度 西武学園文理高等学校 学校自己評価表

目指す学校像	グローバルな視野と21世紀型スキルを培って、海外も含めた多彩なステージで活躍し社会に貢献できるレディー&ジェントルマンの育成	達成度	A ほぼ達成 (8割以上)
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 旧帝大・早・慶・上・理大・GMARCH等の合格者数を増大させる。</li> <li>○ Global入試における英語資格試験が利用できる体制を確立するとともに、国際教育と海外大学進学に対応できる進路体制を構築する。</li> <li>○ 知識・技能の習得と共に、それを活用するための思考力・判断力・表現力を身につけさせる。</li> <li>○ 旧帝大・早・慶・上・理大・GMARCH等の合格者数を増大させる。</li> <li>○ Global入試における英語資格試験が利用できる体制を確立するとともに、国際教育と海外大学進学に対応できる進路体制を構築する。</li> <li>○ 知識・技能の習得と共に、それを活用するための思考力・判断力・表現力を身につけさせる。</li> </ul>		B おおむね達成 (6割以上)
			C 変化の兆し (4割以上)
			D 不十分 (4割未満)

年度課題		年度評価		次年度への課題と改善策	
No.	課題	具体的目標	課題項目の達成状況		
1	教育活動	学力向上	アクティブラーニング型授業研修として研究授業を英語・国語・地歴公民・理科を中心に実施した。また、授業時間の確保に努め、例年実施している夏季・冬季・春季・高2生夏季合宿・高3生夏季合宿ゼミ等も行った。	B	21世紀型スキルをもった人材育成を念頭に新たな教育の構築を図る。
			3年間の授業進度計画を各教科で検討しシラバスを作成し、平成29年4月に新入生に配布した。	A	新課程に伴い、授業内容の見直しを検討する。
			全国模試を定期的実施し、各生徒に自分の学力水準を全国レベルで把握させ、また、各種分析を行い学習指導・進路指導に活用した。	B	2020年大学改革に伴う「大学入試共通テスト」に向けての組織的な対応を図る。
			イノベーションセンターは定期考査前・考査中等多くの生徒の活用が見られ、昨年度より大きく利用生徒数が増加した。	A	イノベーションセンターの活用について検討を図る。
			理数科先端科学講座の更なる充実を図るため、「ロボット製作プログラミング」「サイエンスイマージョン(実験)」は本校ALT協力のもとイマージョン教育を取り入れた。また、理数科アメリカ研修旅行(NASA・OSC等)を実施した。	A	アメリカ研修旅行の内容を再検討する。
		人間形成	多彩な学校行事を通し、生徒たちに達成感や友人との協調の大切さを体験させ、生徒会をはじめ各種委員会の活性化にもつなげた。クラブ活動では全国大会・関東大会に出場したクラブもあり、生徒の努力の成果が認められた。	A	生徒の安全を第一とした学校生活を充実させ、学校行事・クラブ活動の活性化を図る。
	「総合的な学習」の計画的な実施と内容の充実を図った。自己探求・進路選択・企業や地域との連携などをテーマとしたさまざまな体験的教育活動を行い、文理祭での発表の場を設けた。	A	「総合的な学習」の全項目の内容を見直し、生徒にとってより充実した達成感のある研究活動の場とする。		
	例年の新入生オリエンテーションで新しい友人関係の構築ならびに挨拶運動の推進のみならず、本校メディアポリシーを明示し、SNS等の利用についての研修を行った。	B	生徒指導・進路指導部を中心に多岐に亘る人間形成にかかわる新プログラムの開発を図る。		
2	学校としての組織的対応	進路指導部の改革	積極的に重点項目の共有を図るため、進路指導部会を月1回開催した。また、生徒の志望校合格に向けた具体的プランの実行のため、管理職および学年主任、教科担当へデータを提示して共有化を図った。	B	教務との更なる連携強化により、2020年大学改革に向け組織的な対応を図り、進路指導部の体制強化および各教員の進路指導力を向上させる。
		保護者との連携	保護者会、授業参観、保護者面談を定期的実施し、年度当初の学校ならびに学年運営計画を保護者に説明し、理解と協力を求めた。またHPでは、保護者連絡欄を頻繁に更新し、連絡事項の徹底を図った。	A	高1は新たな教育情報システムの導入により保護者との協力を一層強化し、教育活動の充実を図る。
		教育活動の対外的報告	HPを改訂し、「What's New」欄の更新により、学校行事やクラブ・委員会活動の様子など、学校の様々な活動をタイムリーに報じることができた。各学年で発行する「学年通信」も充実し、学年ごとの指導に役立てることが出来た。募集においては、各教員が担当エリアを中心に学校広報活動を行った。	A	学校説明会を含め広報活動の内容を見直し、文理高校を広く知っていただくよう更なる充実を図る。
		学習環境の美化と整備	全校舎の外壁耐震補強工事を実施し、災害対策を充実するとともに、外観の景観改善を図った。3S運動(整理・清掃・整頓)を推進し、委員会活動を中心に教員と生徒が一体となって学習環境の整備、改善につとめ、特に教室の整理・整頓・整列の可視化を図った。	A	さらに他のゾーンの改修・補修工事を推進し、衛生環境・学習環境の改善を図る。
3	教職員人材育成	授業アンケートの実施	生徒による授業評価アンケートと保護者による学校評価アンケートを実施した。教員一人ひとりの評価結果は各教員が自らの授業改善に役立てるとともに、明らかになった課題を教科・学年で共有し各教科指導に反映させた。	A	評価結果をもとに、21世紀型人材育成に向けてより効果的な授業展開の構築を図る。
		課題設定表の作成と評価	「課題設定表」により自己点検自己評価の改善を図り、自ら課題を明らかにすることによりその実践に取り組んだ。年度末には課題の達成度を各自で評価し、分掌評価、学校評価へ結びつけた。	A	「課題設定表」を用いた各教員の効果的な自己点検自己評価の更なる充実を図る。
		職員研修会の実施	年間計画に基づき校内各分掌主任が中心となり、進路指導・生徒指導・教育相談・教育情報・環境整備・国際教育などが実施した。今年度は防災関連を複数回実施した。	B	研修により教育現場の資質を向上を図る。昨年同様防災に関する意識を一層高め、職務遂行に努める。

## 平成29年度 西武学園文理中学校学校関係者評価

目指す学校像	グローバルな視野と21世紀型スキルを培って、海外も含めた多彩なステージで活躍し社会に貢献できるレディー&ジェントルマンの育成	凡例	A そう思う
重点目標	グローバルな視野と21世紀型スキルを培うために学校教育活動全般を通じて①総合的な言語力の修得②異文化理解の体得③日本の伝統文化の理解以上の三点について特に留意してその育成を図る。特に、日常生活面における指導の徹底を図り、自学自習の習慣の強化、情操の向上等により社会から信頼される人格の陶冶を目指す。		B どちらかといえばそう思う
			C どちらかといえばそう思わない
			D そう思わない

評価項目	学校関係者評価		次年度への課題と改善策
総合的評価	<p>(1) 学校の雰囲気・校風がよい</p> <p>(2) 学校への交通の便がよい</p> <p>(3) 校舎・施設がよい</p> <p>(4) 安全への配慮が行き届いている</p> <p>(5) 生活指導がしっかりしている</p> <p>(6) いじめなどの問題が少なくてよい</p> <p>(7) 学校行事が充実している</p> <p>(8) 保護者同士の関係がよい</p> <p>(9) 制服がよい</p> <p>(10) 納得できる学費である</p>	<p>■ A</p> <p>■ B</p> <p>■ C</p> <p>■ D</p>	<p>(1)このまま次年度に繋げていきたい。</p> <p>(2)輸送体系の再検討を図る。</p> <p>(3)さらなる改善をめざす。</p> <p>(4)より一層の充実を進める。</p> <p>(5)さらに強化していく。</p> <p>(6)問題発生ゼロを目指して努力する。</p> <p>(7)現状を維持していく。</p> <p>(8)保護者関連の行事を見直す。</p> <p>(9)改訂に向けての検討を進める。</p> <p>(10)諸費用の削減を図る。</p>
学習指導評価	<p>(1) 学習指導・教科学習が充実している</p> <p>(2) 基礎学力の定着がきちんと行えている</p> <p>(3) 成績上位者をさらに伸ばしてくれる</p> <p>(4) 成績下位者の面倒をよくみってくれる</p> <p>(5) 指導計画・教育課程が充実している</p> <p>(6) 体験学習が充実している</p> <p>(7) 英検・漢検の指導が充実している</p> <p>(8) 国際理解教育が充実している</p> <p>(9) 進学指導が充実している</p> <p>(10) 心の教育が充実している</p>	<p>■ A</p> <p>■ B</p> <p>■ C</p> <p>■ D</p>	<p>(1)さらなる改善をめざす。</p> <p>(2)指導体制の見直しを図る。</p> <p>(3)ゼミ等の充実を検討する。</p> <p>(4)補習授業のシステム化を進める。</p> <p>(5)より良いカリキュラムを追求していく。</p> <p>(6)現状を維持していく。</p> <p>(7)系統的な指導体制の確立を図る。</p> <p>(8)具体的な内容について再検討する。</p> <p>(9)モチベーションの形成について吟味する。</p> <p>(10)より具体的に満足度を上昇させる。</p>
教員評価	<p>(1) 熱心な先生が多い</p> <p>(2) 明るい先生が多い</p> <p>(3) 公平な先生が多い</p> <p>(4) 困ったときに相談しやすい先生が多い</p> <p>(5) 頼りがいのある先生が多い</p> <p>(6) 質問や問いかけに、的確に対応してくれる先生が多い</p> <p>(7) きめ細かな指導をしてくれる先生が多い</p> <p>(8) 授業がわかりやすい先生が多い</p> <p>(9) 生活指導をしっかりやってくれる先生が多い</p> <p>(10) 学級運営が上手な先生が多い</p>	<p>■ A</p> <p>■ B</p> <p>■ C</p> <p>■ D</p>	<p>(1)教員の前向きな姿勢を保持する。</p> <p>(2)現在の学習環境を大切にしていく。</p> <p>(3)全ての生徒にきちんと気配りする。</p> <p>(4)生徒の信頼感を向上させる努力をする。</p> <p>(5)教員としての資質をより高めていく。</p> <p>(6)日々研鑽に努め指導力を高める。</p> <p>(7)より生徒の立場に立った指導を心がける。</p> <p>(8)教員の研修の促進に努める。</p> <p>(9)指導内容の共通理解の徹底を図る。</p> <p>(10)職場内での研修の機会を設ける。</p>

## 平成29年度 西武学園文理高等学校学校関係者評価

目指す学校像	ハルな視野と21世紀型スキルを培って、海外も含めた多彩なステージで活躍し社会に貢献できるレディー&ジェントルマンの育成 ○ 旧帝大・早・慶・上・理大・GMARCH等の合格者数を増大させる。 ○ Global入試における英語資格試験が利用できる体制を確立するとともに、国際教育と海外大学進学に対応できる進路体制を構築する。 ○ 知識・技能の習得と共に、それを活用するための思考力・判断力・表現力を身につけさせる。 ○ 旧帝大・早・慶・上・理大・GMARCH等の合格者数を増大させる。 ○ Global入試における英語資格試験が利用できる体制を確立するとともに、国際教育と海外大学進学に対応できる進路体制を構築する。 ○ 知識・技能の習得と共に、それを活用するための思考力・判断力・表現力を身につけさせる。	凡例 A そう思う B どちらかといえばそう思う C どちらかといえばそう思わない D そう思わない
--------	---	--

評価項目	学校関係者評価	次年度への課題と改善策
総合的評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校の雰囲気・校風がよい</li> <li>(2) 学校への交通の便がよい</li> <li>(3) 校舎・施設がよい</li> <li>(4) 安全への配慮が行き届いている</li> <li>(5) 生活指導がしっかりしている</li> <li>(6) いじめなどの問題が少なくてよい</li> <li>(7) 学校行事が充実している</li> <li>(8) 保護者同士の関係がよい</li> <li>(9) 制服がよい</li> <li>(10) 納得できる学費である</li> </ul> </div> <div style="width: 35%; text-align: right;"> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)現在の状況を大切にしていきたい。</li> <li>(2)輸送体系の再検討を図る。</li> <li>(3)老朽化している施設の改善に努める。</li> <li>(4)さらなる安全性を追求していく。</li> <li>(5)より一層の指導の強化を図る。</li> <li>(6)問題発生ゼロを目指して努力する。</li> <li>(7)行事に対する満足度を高める。</li> <li>(8)現状を維持していく。</li> <li>(9)改善点の有無について追求していく。</li> <li>(10)諸費用の削減について検討を進める。</li> </ul>
学習指導評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習指導・教科学習が充実している</li> <li>(2) 基礎学力の定着がきちんと行えている</li> <li>(3) 成績上位者をさらに伸ばしてくれる</li> <li>(4) 成績下位者の面倒をよくみってくれる</li> <li>(5) 指導計画・教育課程が充実している</li> <li>(6) 体験学習が充実している</li> <li>(7) 英検・漢検の指導が充実している</li> <li>(8) 国際理解教育が充実している</li> <li>(9) 進学指導が充実している</li> <li>(10) 心の教育が充実している</li> </ul> </div> <div style="width: 35%; text-align: right;"> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)さらなる充実に向けて努力する。</li> <li>(2)一層の改善を目指して取り組んでいく。</li> <li>(3)個々のニーズに対応できる体制を整える。</li> <li>(4)より手厚い指導を系統的に進める。</li> <li>(5)カリキュラムを再検討し、より進化させる。</li> <li>(6)行事の見直しと体系化を進める。</li> <li>(7)全校的に検定への意欲を高める。</li> <li>(8)内容を見直し他校との差別化を図る。</li> <li>(9)生徒、保護者の満足度を向上させる。</li> <li>(10)内容を精選し、効果的な指導を目指す。</li> </ul>
教員評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 熱心な先生が多い</li> <li>(2) 明るい先生が多い</li> <li>(3) 公平な先生が多い</li> <li>(4) 困ったときに相談しやすい先生が多い</li> <li>(5) 頼りがいのある先生が多い</li> <li>(6) 質問や問いかけに、的確に対応してくれる先生が多い</li> <li>(7) きめ細かな指導をしてくれる先生が多い</li> <li>(8) 授業がわかりやすい先生が多い</li> <li>(9) 生活指導をしっかりやってくれる先生が多い</li> <li>(10) 学級運営が上手な先生が多い</li> </ul> </div> <div style="width: 35%; text-align: right;"> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)現状をさらに推し進めていく。</li> <li>(2)現在の学習環境を大切にしていく。</li> <li>(3)「そう思う」の割合をもっと増加させる。</li> <li>(4)話しやすい環境作りに努力していく。</li> <li>(5)生徒の信頼感を高める努力を継続する。</li> <li>(6)日常的に様々な研鑽を深めていく。</li> <li>(7)生徒目線での指導を強化していく。</li> <li>(8)授業の理解や定着の確認頻度を増やす。</li> <li>(9)指導内容の統一性の徹底を図る。</li> <li>(10)「学級」の持つ意義と効果を再確認する。</li> </ul>